

平成25年度「学校・地域パートナーシップ事業」取組の概要

市町村名	学校名等
安堵町	安堵中学校

1 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

本事業の前身の学校・地域連携事業の時代から、多彩な知識・経験や技術をもった方々に学校支援ボランティアとして登録していただき、学校の様々な教育活動や環境整備に支援と協力を得てきた。こうした学校と地域の結びつきをより一層深め、パートナーシップ事業のねらいである協働・参画型の関係づくりをめざすために、PDCAサイクルに基づいたコミュニティ会議を充実させるよう努めた。

2 取組の概要

安堵中学校では、これまで体育祭におけるダンスの指導やパソコンの指導補助などの授業支援や、校内の樹木剪定や生け花、写真展示など学校の環境整備分野で地域の方々の支援や協力を得てきた。ボランティアの人数の減少や授業内容の関係で、活動内容はやや流動的であるが、無理のない取組が続いている。



また、小学校同様お話サークル「ねこじゃらし」による朝のおはなし配達や交流行事は中学になっても続いている。保育園時代も含めると実に10年以上も子どもたちは、「ねこじゃらし」の方々に見守られ成長してきたことになる。こうした「点」ではなく「線」としての長いつながりの集大成として、中学校3年生を対象にした「ねこじゃらし」による創作話の鑑賞会もはじまった。卒業後はそれぞれ町外の進学先へと

進むことになる中学校3年生が、郷土に誇りをもって巣立ってほしいという「ねこじゃらし」の方々の願いは、学校とのコミュニティ会議を通して教師にも共有され、3年生のカリキュラムの中に位置づけられた。生徒たちは、戦前地域の産物であった梨作りを素材にした話や陶芸家であり人間国宝第1号の富本憲吉にまつわる話を1時間かけてじっくりと鑑賞する。それは、まさに「ねこじゃらし」との「卒業式」であり、子どもたちは、こうした活動をとおして、話の内容だけでなく地域の方々に見守られながら成長してきたことも自覚する貴重な時間となっている。